

平成23年2月9日

林原グループにおける古生物学研究事業の今後に関する声明

日本古生物学会 会長 加瀬 友喜



林原自然史博物館は、林原グループの文化支援活動（メセナ活動）の一環として設立され、以来古生物学の振興と教育普及に大きな役割を果たしてきた。20年にもおよぶモンゴル科学アカデミーとのゴビ砂漠での恐竜共同発掘調査研究は、同博物館の特筆すべき活動の一つである。同博物館は、我が国の政府開発援助によるモンゴル古生物研究所の設備及び人材育成に多大に尽力し、その信頼関係を基礎に、恐竜をはじめとする貴重な古脊椎動物標本のモンゴル国外への研究のための借用を許可されている数少ない研究機関の一つである。この共同研究を通じて多くの学術上重要な標本が発見・発掘され、それらの研究から恐竜の進化や生態系の解明に多大な貢献をしてきた。なかでも、植物食恐竜の営巣行動や大型肉食恐竜の個体発生などに関する研究成果は、世界の恐竜研究者からも注目されている。この共同研究は、学術の分野だけでなく、両国の親善にも大きな役割を果たしている点も特筆すべきことである。今回の問題によって、両国の友好的な共同研究体制が失われることは誠に遺憾であり、これまで築き上げてきたモンゴルとの学術上の国際交流を途絶えさせることにはならない。

同博物館は、これまでの発掘調査によって、またその研究・教育活動に賛同する人々からの寄贈も受け、多数の貴重な標本を収蔵している。それらは内外の古生物学界の研究成果の物的証拠となる標本で、過去の地球の歴史を現在に伝える文化財であり、かつ人類の智の共有財産として保存すべきものである。なかでも、同博物館が所蔵するステゴサウルス類の新属新種（ヘスペロサウルス・ムッシ）のタイプ標本（新たな種の提唱にあたり、その学名の基となる標本）は、動物命名法の国際的ルールである国際動物命名規約で定められた永久保管と研究者への公開が義務づけられていることを忘れてはならない。現在、これらの収蔵標本は同博物館の研究者のみならず、国内外の研究者や学生にも提供

され、日本における恐竜をはじめとする脊椎動物化石研究の重要な拠点の一つになっている。

林原自然史博物館は、研究員はもとより、化石剖出技術者や、博物館教育の専門職、資料管理の専門職などを有し、我が国最大級の古生物の研究・教育機関である。化石剖出等専門員を常勤で配置している数少ない機関であり、国内における古脊椎動物研究に関わる技術の継続的な向上に寄与してきた。兵庫県において国内最大級の恐竜化石「丹波竜」が発見された際には、発掘の技術指導、技術移転を行うなど、日本の古生物研究のための技術開発のリーダーとなっている。また、博物館教育専門員は「ダイノソアファクトリー」(2002年から2006年：江東区有明)、「ようこそ恐竜ラボへ」(2010年：岡山市など国内外各地)など、同博物館の研究成果を積極的に学習に活用し、オリジナリティに富み、かつ学習効果の高い展覧会を実施し、高い評価を受けている。このような国内有数の技能集団の能力、技術、経験などが失われるようなことがあるならば、それは我が国にとって大いなる損失である。

このたびの林原グループの経営破綻により、同研究所と博物館の事業の継続が困難になったことは、誠に遺憾である。日本古生物学会は、今回、株式会社林原とその関連会社が会社更生法の適用を申請したことに鑑み、学会としての立場から以下の提言を行い、関係方面に適切なる対応をお願いする次第である。

1. 林原自然科学博物館の保管管理する標本が、貴重な文化財として位置づけられ、今後も適切な管理の下に置かれ、研究と教育に引き続き供されること。
2. 林原自然科学博物館が培ったモンゴルとの国際交流、開発された研究技術、教育活動やデータ資料や人的財産に対して、適切な評価と継承への尽力がなされること。

連絡先：

日本古生物学会

〒113-0033 東京都文京区本郷2-27-2 東真ビル3F

e-mail: psj-office@world.ocn.ne.jp

Tel: 03-3814-5490, Fax: 03-3814-6216